

④ 共通観点 2 (共通の成果指標と達成目標) 概念図【1 ページ】

グローバル戦略を実行するための“強靱な土台づくり”を推進



グローバル戦略のための強靱な土台づくり
抜本的な大学改革の推進

改革の方向性・指標等 (主要事項)

◎国際化関連

○多様性

- ◆「海外一線級アーティストユニット誘致」による外国人教員等増
 [(教員に占める外国人教員等割合) H25 : 34.6% → H28 : 59.0% → H31 : ~~69.4%~~58.8% → H35 : ~~82.0%~~71.8%]
- ◆大学院「グローバル・アート創造研究科」新設等に伴う留学生増
 [(全学生に占める留学生割合) H25 : 4.4% → H28 : 8.8% → H31 : 13.3% → H35 : 17.7%]

○流動性

- ◆「海外戦略拠点整備」・「国際共同カリキュラム導入」による留学経験者比率増及び大学間協定に基づく交流数増
 [(日本人学生に占める留学経験者割合 (大学院生)) H25 : 7.8% → H28 : 17.0% → H31 : 26.3% → H35 : 35.6%]
 [(大学間協定に基づく派遣学生数 (大学院生)) H25 : 38人 → H28 : 133人 → H31 : 228人 → H35 : 323人]
 [(大学間協定に基づく受入学生数 (大学院生)) H25 : 34人 → H28 : 133人 → H31 : 232人 → H35 : 342人]

○留学支援体制

- ◆「グローバル・トータル・センター」新設(専任スタッフ配置)や海外一線級アーティストユニットを「グローバル・メンター」としたキャリア形成支援等

○語学力関係

- ◆「海外一線級アーティストユニット誘致」に伴う外国語による科目数増
 [(外国語による授業科目数) H25 : 4科目 → H28 : 145科目 → H31 : 300科目 → H35 : 505科目]
- ◆「言語・音声トレーニングセンター」の活用による外国語レベルの向上

○教務システムの国際通用性

- ◆国際共同カリキュラム (「ジョイントディグリー」) 実施や海外一線級アーティストユニットによる「公開学位審査」実施等、教育プログラムの国際通用性及び質保証の確保

○大学の国際開放度

- ◆混住型学生宿舎「藝心寮」(平成26年 PFIにより整備)の教育家としての積極的活用
 [(混住型宿舎への外国人留学生入居者数) H25 : 2人 → H28 : 152人 → H31 : ~~152人~~36人 → H35 : ~~152人~~47人]
- ◆教員・学生の国際交流活性化や発進力強化のための海外戦略拠点「藝大グローバルギャラリー」の整備
 [海外拠点: ベルリン、ロンドン、パリ、ローマ、ウィーン、ブダペスト、ボストン、ロサンゼルス、北京、ソウル、台北、クアラルンプール、ハノイ、ジャカルタ、ウランバートル]

◎ガバナンス改革関連

○人事システム

- ◆既に導入済の「年俸制」をさらに発展・拡充させ、海外一線級アーティストユニット等を積極的に雇用
 [(年俸制導入割合 (教員)) H25 : 9.6% → H28 : 42.9% → H31 : 46.8% → H35 : 52.2%]

○ガバナンス

- ◆学長のリーダーシップの下で戦略策定を行う「大学改革プラン推進会議」、学長直下で戦略を機動的実行する「藝大グローバル・クロッシング・コア」、大学IR機能を担う「戦略企画インテリジェンス」、分野横断的教員組織「芸術研究院」等、大学組織及び意思決定プロセスの見直し等によるガバナンス機能の抜本的強化

◎教育の改革的取組関連

○教育の質的転換・主体的学習の確保

- ◆TAを発展させ、上級生が下級生に対し指導的役割を担い、教育指導等を行う「シニアチューター制度」の新設

○柔軟かつ多様なアカデミック・パス

- ◆美術、音楽及び映像の3分野の複合的・横断的履修が可能な大学院「ダブルメジャープログラム」の実施
- ◆本学附属音楽高等学校等、高校からの「飛び入学制度」導入や、小中高生から幼児まで対象とした超早期型教育「卓越人材ディスカバリープログラム」等、早期教育の実施、大学院「5年一貫プログラム」の実施

◎その他

- ◆世界に先駆けた「ブランディング戦略」により、教育プログラムや活動実績・成果等を多言語で広く国際発信

⑤ 共通観点 3 (大学独自の成果指標と達成目標) 概念図【1ページ】

グローバル戦略の成果を可視化するための指標・達成目標を設定



グローバル戦略の着実な実行による目標の達成

6つの着眼点・具体的指標

◎教育研究体制・人材育成プログラムのグローバル化に関する指標

- ◆海外一線級アーティストユニット誘致実績(ユニット延人数)
[H25: 20人 → H28: 80人 → H31: 100人・120人 → H35: 120人・140人]
- ◆海外の大学・関係機関等との国際共同プロジェクトの実施件数(年間延数) / 参加学生数(延数)
[H25: 40件/201人 → H28: 90件/600人 → H31: 120件/900人 → H35: 150件/1,200人]
- ◆ジョイントイニシアチブ等カリキュラムへの反映(コ-スク-授業科目への反映、参加者アンケート等(定性的指標))

◎海外での教育研究活動等、国際発信・展開に関する指標

- ◆海外における教員・学生の制作・展示・公演等プロジェクト実施件数(年間延数) / 参加者数(延数)
[H25: 18件/45人 → H28: 40件/100人 → H31: 60件/150人 → H35: 80件/200人]
- ◆国際交流協定締結大学以外の国際連携大学等機関数(機関数)
[H25: 54機関 → H28: 75機関 → H31: 100機関 → H35: 130機関]
- ◆海外でのプロジェクト等活動実績(実施プロジェクトの達成度、参加者アンケート等(定性的指標))

◎社会実践・アウトリーチ活動等、社会連携・展開に関する指標

- ◆国内におけるの関係機関等との共同プロジェクトの実施件数(年間延べ数)及び参加者数(延べ数)
[H25: 234件/1,258人 → H28: 350件/2,000人 → H31: 500件/3,000人 → H35: 700件/4,200人]
- ◆国内でのプロジェクト等活動実績(実施プロジェクトの達成度、参加者アンケート等(定性的指標))

◎“上野の杜”の国際芸術文化拠点基盤形成等に関する指標

- ◆大学美術館・演奏堂への来場者数(年間延べ数)
[H25: 41万人 → H28: 60万人 → H31: 80万人 → H35: 120万人]
- ◆上野の杜への来訪者数(年間延べ数)
[H25: 1,576万人 → H28: 1,750万人 → H31: 3,000万人 → H35: 3,300万人]
- ◆上野の杜での本学主催イベントの開催数(年間延べ数)
[H25: 0件 → H28: 15件 → H31: 25件 → H35: 40件]
- ◆キャリアアッププログラム参加者数(年間延べ数)
[H25: 0人 → H28: 50人 → H31: 80人 → H35: 120人]
- ◆大学主催イベント等活動実績(実施プロジェクトの満足度、参加者アンケート等(定性的指標))

◎“藝大”のブランド化・国際プレゼンス向上に関する指標

- ◆国際的な展覧会・コンクール等での受賞・入賞実績(年間延べ件数)
[H25: 54件 → H28: 75件 → H31: 95件 → H35: 120件]
- ◆国内の展覧会・コンクール等での受賞・入賞実績(年間延べ件数)
[H25: 198件 → H28: 250件 → H31: 300件 → H35: 350件]
- ◆ブランディングシステムによる藝大のプレゼンス(活動や受賞件数・内容等の総合評価(定性的指標))

◎グローバル戦略実施に係る財政基盤確立に関する指標

- ◆藝大基金の獲得状況(受入累計額)
[H25: 177百万円 → H28: 5,000百万円 → H31: 8,000,400百万円 → H35: 12,000,200百万円]
- ◆受託事業・受託研究等外部資金獲得状況(単年度受入額)
[H25: 595百万円 → H28: 800百万円 → H31: 900百万円 → H35: 1,000百万円]

共通観点 2 共通の成果指標と達成目標

- 前提条件となる事項（大学改革、国際化等）に関し、「スーパーグローバル大学」に相応しい実績を有し、かつ目標設定がなされているか。
※各指標の定義は記入要領によること。

1. 国際化関連 (1) 多様性

①教員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任教員等の割合【1 ページ以内】

【実績及び目標設定】

各年度5月1日の数値を記入

	平成25年度	平成28年度	平成31年度	平成35年度
外国人教員等 (A)	79 人	158 人	143 193 人	178 228 人
うち外国籍教員	10 人	70 人	25 75 人	30 80 人
うち外国の大学で学位を取得した日本人教員	39 人	43 人	48 人	53 人
うち外国で通算1年以上3年未満の教育研究歴のある日本人教員	20 人	32 人	53 人	72 人
うち外国で通算3年以上の教育研究歴のある日本人教員	10 人	13 人	17 人	23 人
全専任教員数 (B)	228 人	268 人	243 278 人	248 278 人
割合 (A/B)	34.6 %	59.0 %	58.8 69.4 %	71.8 82.0 %

【これまでの取組】

現状においては、外国籍教員及び外国の大学で学位を取得した日本人教員数は必ずしも多くはないが、本学教員の大半は外国での教育研究歴を有しており、とりわけ、芸術分野においては、正規の海外留学や海外派遣等だけでなく、個人的な展覧会・演奏会等も含め、教員は様々な態様で海外での実践的活動を行っている場合が大半であり、単に教育研究歴に止まらない、多様な海外経験・国際活動実績を有している。

特に本学の場合は、教員のキャリアとして海外での創作研究・演奏活動等の経験を重視して採用・昇格等を行ってきたことから、国際的なキャリアを有する教員の比率は一般的な芸術系大学の比しても高く、その豊富な国際経験を活かし、日本最高峰の芸術大学の教員として、世界水準の教育研究を展開している。

【本構想における取組】

本構想では、海外から一線級のアーティスト等をユニットとして誘致することとしており、これまで培ってきた国際ネットワークを発展させて、美術、音楽及び映像分野において、世界の第一線で活躍している海外のアーティスト・クリエイター等を専任教員として、年俸制により雇用することを含め、柔軟な制度を整え多様な形態で招聘する。

1ユニット当たりの構成は10名規模（「コアユニット」4～5名及び「エクステンションユニット」5～6名）としており、特に芸術分野では、大学のみならず、学術機関・団体や個人など、多様な属性による複合的な「ユニット・コミュニティ」を構築する必要がある。

平成27年度中に6ユニットを誘致し、約60名規模の外国人教員を確保し、その後も段階的にユニット数・構成員の拡充を図る。他方、ユニット誘致と併せて実施する海外戦略拠点整備において、ユニット誘致とのトレード・人材交流も推進し、本学教員の海外への派遣計画を実行することで、外国で教育研究歴を有する日本人教員も段階的に増加させる。

＜海外一線級アーティストユニットの構成＞

ファインアート分野 ヨーロッパ中心	工芸・文化財保存分野 アジア中心	音楽表現分野 ヨーロッパ中心	オペラ声楽分野 ヨーロッパ中心	映画分野 ヨーロッパ中心	アニメーション分野 アメリカ中心
＜コアユニット＞ ロンドン芸術大学セントラル・セントマーティンズ	＜コアユニット＞ 清華大学美術学院	＜コアユニット＞ ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団	＜コアユニット＞ ウィーン音楽演劇大学	＜コアユニット＞ フランス国立映画学校	＜コアユニット＞ ハーバード大学
＜エクステンションユニット＞ パリ国立高等美術学校、シカゴ美術館附属美術大学 等	＜エクステンションユニット＞ 中央美術学院、ソウル大学校美術大学 等	＜エクステンションユニット＞ ベルリン芸術大学、リスト音楽院 等	＜エクステンションユニット＞ メトロポリタンオペラ、ウィーン国立歌劇場 等	＜エクステンションユニット＞ 韓国映画アカデミー大学、映画監督（フィリピン・台湾） 等	＜エクステンションユニット＞ 南カリフォルニア大学、アニメーション映画監督（フランス） 等

(大学名：東京藝術大学) (申請区分：タイプB)

1. 国際化関連 (6) 大学の国際開放度

⑤混住型学生宿舎の有無【1ページ以内】

【実績及び目標設定】

各年度5月1日の数値を記入

	平成25年度	平28年度	平成31年度	平成35年度
混住型学生宿舎に入居している外国人留学生数(A)	2人	152人	36 152 人	47 152 人
留学生宿舎に入居している外国人留学生数(B)	31人	183人	65 183 人	76 183 人
割合(A/B)	6.5%	83.1%	55.4 83.1 %	61.8 83.1 %
混住型宿舎に入居している日本人学生数(C)	146人	150人	266 150 人	255 150 人
全日本人学生数(D)	3,120人	3,062人	3,000人	2,937人
割合(C/D)	4.7%	4.9%	8.9 5.0 %	8.7 5.1 %

【これまでの取組】

現状においては、これまで留学生宿舎として、千葉県松戸市の本学「国際交流会館」を利用してきたが、学生生活全般を含めたグローバル化を推進する観点から混住型学生宿舎の必要性を考え、生活環境を含めた国際化や通学に係る利便性も考慮した上で、混住型学生宿舎設置に向けて準備を進め、都内(足立区)に、混住型学生宿舎「藝心寮」(総戸数300戸)をPFIにより整備し、平成26年度より供用を開始したところである。



【本構想における取組】

本構想においては、今般整備した混住型学生宿舎「藝心寮」を活用し、今後、留学生入居者のさらなる増加を予定している。

同寮においては、入居している学生同士が交流できる「交流サロン」が整備されている他、「アトリエ」や「音楽練習室」も整備されていることから、所謂「教育寮」としての機能も担っており、日本人学生及び外国人留学生双方がお互いの文化・慣習等に触れないながら国際感覚を磨いていく場として活用するとともに、お互いの語学力・コミュニケーション能力を向上させる意味においても、日常生活の中で実践的な運用能力を高めていくことが可能となり、弱点を補完し合うことができることから、寮内において有意義な人材育成等が展開されることが期待される。

なお、特に優秀であると認められる留学生に対しては、寮費の一部を免除する制度を新たに設けることとし、積極的に入寮を促すとともに、寮内での指導的役割も与えることで、教育寮としての機能を高めるような仕組みを構築する。

また、寮内だけでなく、キャンパス内外の様々な場面において、日本人学生と外国人留学生、あるいは、外国人留学生と地域の方々等との交流機会が生まれるような仕組みを設計・実施していく。

(大学名：東京藝術大学) (申請区分：タイプB)

共通観点 3 大学独自の成果指標と達成目標【3 ページ以内】

○ 意欲的かつ挑戦的な独自の定量・定性的成果指標と達成目標が、各大学の構想に応じて設定されているか。

【実績及び目標設定】

<定量的>

各年度大学が定める時点又は通年の数値を記入

	平成 2 5 年度 (H25. 4. 1)	平成 2 8 年度 (H28. 4. 1)	平成 3 1 年度 (H31. 4. 1)	平成 3 5 年度 (H35. 4. 1)
1-④共同プロジェクト外のカリキュラム反映 (科目数)	3 (科目)	10 (科目)	20 (科目)	30 (科目)
1-⑤共同プロジェクト外でのジョイントディグリー への反映 (学位課程数)	0 (課程)	3 (課程)	6 (課程)	10 (課程)
2-③国際交流協定締結大学以外の 海外大学・学術団体・機関等連携数	54 (機関)	75 (機関)	100 (機関)	130 (機関)
	平成 2 5 年度 (通年)	平成 2 8 年度 (通年)	平成 3 1 年度 (通年)	平成 3 5 年度 (通年)
1-①海外一線級アーティストユニットの誘致 実績	20 (人)	80 (人)	120 (人) 100	140 (人) 120
1-②国内における海外の大学・関係 機関等との共同プロジェクト実施件数	40 (件)	90 (件)	120 (件)	150 (件)
1-③国内における海外の大学・関係 機関等との共同プロジェクト参加者数	201 (人)	600 (人)	900 (人)	1,200 (人)
2-①海外における教員・学生の制 作・展示・公演等活動実績	18 (件)	40 (件)	60 (件)	80 (件)
2-②海外における教員・学生の制 作・展示・公演等活動参加者数	45 (人)	100 (人)	150 (人)	200 (人)
3-①国内における大学・関係機関等 との共同プロジェクト実施件数	234 (件)	350 (件)	500 (件)	700 (件)
3-②国内における大学・関係機関等 との共同プロジェクト参加者数	1,258 (人)	2,000 (人)	3,000 (人)	4,200 (人)
4-①大学美術館・演奏堂への来場 者数	417,000 (人)	600,000 (人)	800,000 (人)	1,200,000 (人)
4-② “上野の杜 “への来訪者数	15,763,000 (人)	17,500,000 (人)	30,000,000 (人)	33,000,000 (人)
4-③ “上野の杜”での本学主 催・共催のイベント開催数	0 (件)	15 (件)	25 (件)	40 (件)
4-④アートマネジメント・キャリアアッププロ グラム参加者数	0 (人)	50 (人)	80 (人)	120 (人)
5-①国際的な展覧会・コンクール等 での受賞・入賞実績	54 (件)	75 (件)	95 (件)	120 (件)
5-②国内における展覧会・コンク ール等での受賞・入賞実績	198 (件)	250 (件)	300 (件)	350 (件)
6-①藝大基金獲得状況	177,125 (千円)	5,000,000 (千円)	1,400,000 (千円) 8,000,000	2,200,000 (千円) 12,000,000
6-②受託事業・受託研究等外部資 金獲得状況 (藝大基金除く)	594,459 (千円)	800,000 (千円)	900,000 (千円)	1,000,000 (千円)

<定性的>

1-⑥ 共同プロジェクト参加者からの当該プロジェクトに対する「達成度」「満足度」及び「コメント」を踏まえた総合評価 (3 要素のアベレージ (定量的+定性的))

- ◆「達成度」及び「満足度」(5段階評価) : 5・4・3・2・1
 - ◆「コメント」の「初タイプ」評価割合 (5段階評価) : 5 (0~20%)・4 (21~40%)・3 (41~60%)・2 (61~80%)・1 (81~100%)
- ※以下、2-③、3-③、4-⑤においても同様の考え方により算定

< Total Average >

平成 2 6 年度	平成 2 8 年度	平成 3 1 年度	平成 3 5 年度
3.8 以上	4.0 以上	4.2 以上	4.5 以上

2-④ 海外で実施したプロジェクトに対する参加者からの「達成度」「満足度」及び「コメント」を踏まえた総合評価 (定量的指標+定性的)

< Total Average >

平成 2 6 年度	平成 2 8 年度	平成 3 1 年度	平成 3 5 年度
3.8 以上	4.0 以上	4.2 以上	4.5 以上

3-③ 国内で実施したプロジェクトに対する参加者からの「達成度」「満足度」及び「コメント」を踏まえた総合評価（定量的指標＋定性的）

< Total Average >			
平成26年度	平成28年度	平成31年度	平成35年度
3.8以上	4.0以上	4.2以上	4.5以上

4-⑤ “上野の杜”における大学主催・共催イベント等に対する参加者からの「達成度」「満足度」及び「コメント」を踏まえた総合評価（定量的指標＋定性的）

< Total Average >			
平成26年度	平成28年度	平成31年度	平成35年度
3.8以上	4.0以上	4.2以上	4.5以上

5-③ ブランディングシステムによる“藝大”のプレゼンス（定性評価）

「国際貢献・社会貢献活動」や「伝統文化の継承」等に係る活動実績を評価

※国内外の芸術系大学の実績をリサーチ・相対比較し、グローバルスタンダードで見た

“藝大”の価値の明確化

- ◆平成28年度までにアジアでのポジションを明確化
- ◆平成31年度までに世界的なポジションを明確化
- ◆平成35年度までに世界最高峰の芸術大学に飛躍

【これまでの取組】

<教育研究体制・人材育成プログラムのグローバル化>

長きに亘って培ってきた国際交流実績を踏まえ、欧米やアジアの有力芸術大学はもとより、世界的な楽団等学術機関や、世界的に著名なアーティスト・クリエイター、デザイナー等、多様な国際交流ネットワークを活かし、短期的に来日いただき、学生の指導等を行っている。

<海外での教育研究活動、国際発信・展開>

教員・学生共、東アジアから欧米まで、様々な国際活動を展開しており、例えば、欧州の芸術系大学との共演等による海外公演や、東アジアにおける文化財保存・修復に係る活動、新興国での人材育成支援、映像分野における日中韓との共同制作など、教育研究力を活かした多様な活動を展開している。

<社会実践・アウトリーチ活動等、社会連携・展開>

台東区、足立区、茨城県取手市や神奈川県横浜市等、多数の自治体との連携による活動や、民間企業等との連携による社会実践活動を広く展開しており、教員・学生がチームとなって現地に赴き、制作活動やコンサート等演奏など、教育研究力を活かした多様なプロジェクトを推進している。

<“上野の杜”の国際芸術文化拠点基盤形成>

“上野の杜”は我が国屈指の文化資源の集積として、本学大学美術館をはじめ、東京国立博物館や国立科学博物館、国立西洋美術館、東京都美術館、東京文化会館等多数の文化施設が存在しており、これまで様々な連携を行ってきたが、今般2020年東京オリンピックを目指し、世界的な芸術文化拠点と飛躍すべく、現在、本学が中核となり「上野“文化の杜”新構想」を検討している。

<“藝大”のブランド化・国際プレゼンス向上>

世界的に未だ確立されていない芸術系大学の世界ランキング等、国際プレゼンスに係るグローバルスタンダードを確立すべく、平成22年度には「芸術大学評価の指針」を作成し、さらに現在、中央美術学院、清華大学、パリ国立高等美術学校及びシカゴ美術館附属美術大学等とも検討を開始しているなど、世界の一流大学の参画を得ながら鋭意検討を進めている。

<グローバル戦略実施に係る財政基盤確立>

厳しい行財政事情に鑑み、安定的な財政基盤を確立し、グローバル戦略実施をはじめとする教育研究活動の活性化に資するため、創立125周年（平成24年）から、創立150周年（平成49年）までに250億円獲得を目標とする基金を設置している。

【本構想における取組】

本構想においては、6つの着眼点による目標及び成果指標を設定し、グローバル戦略の着実な実行と成果の発信に重点を置いて取り組むこととしている。とりわけ、“藝大”のブランド化・国際プレゼンス向上に関しては、世界の先駆けとなる試みとして先駆的に推進する。

＜教育研究体制・人材育成プログラムのグローバル化＞

グローバル人材育成に係る教育システム・プログラムの強化に関する指標であり、特に、海外一線級アーティストユニット誘致の状況や、これに伴う国際共同プロジェクトの実施状況（件数・参加者数）や同プロジェクトの達成度・満足度等のレビュー、さらには、その実績を踏まえたカリキュラムへの反映（ジョイントイタリや授業科目への反映等）について成果を明らかにする。

【具体的な目標値は、上記「定量的指標」の1-①～1-⑤、「定性的指標」の1-⑥を参照】

＜海外での教育研究活動、国際発信・展開＞

将来的に国際舞台で活躍するための基盤となる発信力・展開力の強化に関する指標であり、特に、海外における教員・学生の制作・展示・公演等の活動実績（件数・参加者数）や、同活動の達成度・満足度等のレビュー、海外での諸活動の結果拡大される国際交流機関・ネットワーク強化の状況（国際交流協定締結大学だけでなく、芸術・学術団体やギャラリー・個人事務所も含めた関係機関・ステークホルダー数）について成果を明らかにする。

【具体的な目標値は、上記「定量的指標」の2-①～2-③、「定性的指標」の2-④を参照】

＜社会実践・アウトリーチ活動等、社会連携・展開＞

グローバル人材として自身の活動・実績の展開（アウトリーチ）や、社会や他者との協働での活動を通じた表現力・コミュニケーション能力・感性等の涵養等、芸術家としての基礎力に関する指標であり、自治体・企業をはじめとする国内関係機関等との共同プロジェクトの実施状況（件数・参加者数）や同プロジェクトの達成度・満足度等のレビューについて成果を明らかにする。

【具体的な目標値は、上記「定量的指標」の3-①～3-②、「定性的指標」の3-③を参照】

＜“上野の杜”の国際芸術文化拠点基盤形成＞

本学が立地する“上野の杜”の、教育研究・人材育成フィールド「リージョナル・キャンパス」機能について、2020東京オリンピックを契機とした、世界的な芸術文化拠点、教育研究拠点への発展に関する指標であり、本学の美術館・演奏堂への来場者数、“上野の杜”への来訪者数や本学主催・共催のイベント数、同イベントの達成度・満足度等のレビュー、さらには、上野文化施設の学芸員等に対するキャリアアッププログラム提供（参加者数）について成果を明らかにする。

【具体的な目標値は、上記「定量的指標」の4-①～4-④、「定性的指標」の4-⑤を参照】

＜“藝大”のブランド化・国際プレゼンス向上＞

国際的な活動・成果等から、国際的見地からの“藝大”の価値や強み・特色の明確化に関する指標であり、国際的な展覧会・コンクール等での受賞・入賞実績、国内の展覧会・コンクール等での受賞・入賞実績、さらには、国際貢献・社会貢献活動や伝統文化の継承等、本学が担う社会的、国際的役割等に係る活動実績等について成果を明らかにする。

※国際的な展覧会・コンクール等は、「国際ビエンナーレ」や「国際音楽コンクール世界連盟」加盟コンクール、「国際映画祭」等、世界的に権威あるものに精査

【具体的な目標値は、上記「定量的指標」の5-①～5-②、「定性的指標」の5-③を参照】

＜グローバル戦略実施に係る財政基盤確立＞

グローバル戦略を持続的に実行していく上で、自己財源による事業実施が必要不可欠であることを踏まえた、支援期間終了後を見据えた財政基盤確立に関する指標であり、本学が平成24年から平成49年までの25年間で実行することとしている“藝大基金”の獲得実績、さらには、本構想に連携・協力予定の国内外関係機関からの受託事業・受託研究等外部資金の獲得状況について成果を明らかにする。

【具体的な目標値は、上記「定量的指標」の6-①～6-②を参照】